



2019年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社スペースバリューホールディングス
代表者名 代表取締役社長 C E O 森岡 直樹
(東証1部・コード1448)
問合せ先 執行役員コーポレート本部 IR 広報部長 島田 英樹
電話番号 03-5439-6070

業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年6月10日公表の2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異 (2019年4月1日～2019年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 38,000	百万円 400	百万円 400	百万円 200	円 銭 5.70
今回発表予想 (B)	37,215	787	829	208	5.95
増 減 額 (B - A)	▲784	387	429	8	—
増 減 率 (%)	▲2.1	96.9	107.3	4.5	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	35,202	1,462	1,569	1,031	24.48

(注) 当社は、2018年10月1日に単独株式移転により日成ビルド工業株式会社の完全親会社として設立したことから、前期第2四半期実績(2019年3月期第2四半期)については日成ビルド工業株式会社の2019年3月期第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)を記載しております。

2. 修正の理由

売上高は前回発表予想を下回りましたが、高利益率のメンテナンス事業が好調に推移したことに伴い売上総利益率が当初の想定を上回り売上総利益が増加したことや、再発防止策にかかる費用が発生しているものの販管費及び一般管理費が当初の想定を下回ったこともあり、営業利益及び経常利益は前回発表予想を大きく上回りました。しかしながら、横浜市にあるホテル開発用地の売却方針の決定により、それにかかる設計費及びデザイン費等を特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は概ね前回予想数値となりました。

なお、本資料の発表日現在において通期連結業績予想の修正を行っておりませんが、修正の必要が生じた場合には、速やかに公表いたします。

※ 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上